
美醜

椋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

美醜

【Nコード】

N8175E

【作者名】

椽

【あらすじ】

ある野良犬の視線で語られる掌篇小説。自分の天職とは何か。1分ほどで読める読み切り小説。

鏡に映った自分の笑顔に、自分はひどく失望した。

犬の笑顔の見づらいことはよく人間が言ったものだ。その通りである。自分の見づらいのは笑顔だけでない。毛も抜けてきた、鼻っ柱も少々すりむけて、色が変わっている。しかし一つ喜ばしいことと言えば向こうにいらっしやっただ、ヨークシャーテリアのお嬢さんの容姿、臭い、そして彼女の所作というものが、他の犬どもと分け隔てなく感じられることである。自分の湿り気の少なくなつた鼻っばしに触れる、あの、つんつんとした香りに、それに加えて彼女の飼い主である女性の、これもまたなおさらつんつんとした香りが触れるとき、自分はそこがどこであるうとも眠ることが出来る。安心するのだ。ただ自分は薄暗い道路の端に寝転がって、深い眠りに落ちるのだった。

夜、車の多く通る道路は信号がしょっちゅう色を変えてみせるが、自分はいつもどの色の世界に飛び込もうかと考えている。自分のように、白と黒の単色系に押しつぶされているものにとって、色を求めるのは当然のことではないか？ 闇の内にはいる自分を少しばかり照らし出すものは自分をむやみに誘惑し始める。自分はやみくもに4本の足で地を蹴って、薄汚れた体を空气中にさらしてみる。ところがそんな時に限って人が丁度通りかかるうとしていたりなどして、うまい具合に自分がその人に飛びかかったような形につくりあげられる。一瞬の誘惑が、誤解を招く。それでも自分というものは闇の内において自分で悲しくなるほど強かった。自分は自分の強いことを何故だと思いながらも嘆くことがあった。

自分は一度として色の世界に浸ることなく、単色の世界で生を営み、それを苦とも思わず闇のなかを歩き回ることを天職のように心

得ている。そう心得ている限り、自分が闇のなかを浮遊するような
心持ちに浸る事が出来る。自分が唯一美しい時である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8175e/>

美醜

2010年10月9日01時51分発行